



＜カラー作品＞

フレンズ

ポールとミシェル

"friends"

友だちがいつか
恋びとにかわった
—小さいパパとママ
陽ざしは風によりそい
季節は眠っていたのに—



パラマウント映画
C.I.C.配給
8

ヒビヤ
みゆき座
(591)
5357
11月13日へ土
大ロードショー



パラマウント映画「フレンズ」オリジナルサウンドトラック
—SWG—7512— VICTOR WORLD GROUP



パラマウント映画「フレンズ」主観歌エルトン・ジョン
—FR—2801— 東芝レコード

●FRIENDS

I hope today will be a lot of highway
For friends you find on every road
Can you ever think of any better way
For the lost and weary travellers to go

Making friends for the world to see
Let the people know you got what you need
With a friend at hand you will see the light
If your friends are there, then everything's all right

It seems to me a crime that we should age
These fragile times should never slip us by
A time you never can a child erase
As friends together watch their childhood fly

Making friends for the world to see
Let people know you got what you need
With a friend at hand you will see the light
If your friends are there, then everything's all right

Making friends for the world to see
Let the people know you got what you need
With a friend at hand you will see the light
If your friends are there, then everything's all right

Music composed & sung by Elton John
Lyrics by Bernie Taupin.



■ストーリー

パリにきたミシエル。父親をなくして一人ぼっちになった14才。たよって来たいこのアニーはぐうたら亭主とケンカばかり。住んでいたアルルの白い家になつかしい。パリに住んでるポール。15才。実業家の父親と大きな邸宅。やがて新しい母になる女性とその息子。ピアノに向ってモーツァルトを弾くその子が新しい弟だなんて！

ポールとミシエル。孤独な二人は動物園で知り合った。

ポールはドライブで父のムスタングをこわした。どうせイヤなパリだもの、家を出よう、このままアルルへ行こう、と二人。

アルルは美しい。朝も昼も夜もミシエルの白い家は太陽で金色に染る。日はすぎた。食物のない日が来た。二人は寄りそった。

寄りそって《愛》の行為が空腹を助けた。

ポールは近くの農園にやとわれた。

朝早く家を出て夕方疲れて帰って来る。

ある夜、ミシエルがささやく。

「赤ちゃんが生まれるのよ」

「がんばるよ、ぼく」

力強くポールが答える。

出産の日。医師をはばかりて、二人は本を頼りに女の子を産んだ。ひたいの汗と元気な、ベビーの泣き声に、小さなパパとママの誇りがあつた。

アルルの白い家には三人の家族がいる。三人だけがこの美しい世界の住人なのだ。

小さいキレイなママ。小さい働き者のパパ。もっと小さいかわいいベビー。

晴れた朝。パパがかけける。ママとベビーが見送る。三人は幸福だ。しかし幸福の時間がその朝で終ることを、知らない――。

フレンズ

ポールとミシエル

"friends"

＜CAST＞

ポール……………ショーン・バリー
ミシエル……………アニセー・アルピナ

＜STAFF＞

製作……………ルイス・ギルバート
監督……………ルイス・ギルバート
原作……………ルイス・ギルバート
脚本……………ジャック・バウワ
撮影……………アンドレアス・エルツ

■解説

14才の孤児の少女。裕福だが心のふれあいの無い家庭に育った15才の少年。その友情と清らかに結ばれる愛を風光明媚な南フランスのアルルに描いた香り高いロマン。

ティーン・エイジ・ラブは最近の映画の流行だが、この映画では、単に既成の大人社会との対比だけに終わってないところを見なければいけない。友情が愛に変り、ベビーの出生という常識的には大事件をサラリとうけとめる幼い純真な二人。今、流行の言葉でいう「原点への復帰」「原始への回帰」といったものへの直感的な問いかけがなされている。美しいこの映画は、底に苦いものを秘めているから感動は深く、特にラストシーンの印象は言葉や文字であらわす事が不可能なほど心にしみる。

主演のショーン・バリー、アニセー・アルピナはルイス・ギルバートの指導でこの大役を見事に果たした。撮影はアンドレアス・ワインディング。アルルの湖沼地帯を美しい色調でみせて、これだけでも一見の価値がある。音楽はエルトン・ジョン。ロックなリリックな暖かい声とギターで聞かせて、特筆すべき素晴らしい声である。

製作・監督ルイス・ギルバート

Lewis Gilbert

佳作《アルフィー》で六五年のカンヌ映画祭審査員特別賞を受賞。《007は二度死ぬ》《冒険者》の成功で一流監督にのし上った。

《フレンズ》は子役出身の経験を生かした演技指導が主役を適確に生かし、プロデューサーとしてはアルル地方のロケで物語の効果を助けるなど存分に腕をふるった作品である。特にラスト・シーンの美しさは特筆すべき見事なものである。

一九二〇年ロンドン生まれ。子役から助監督になり、教育映画で脚本・演出を担当。四七年マギー・ゴット・フォン・ティーン主演の《バレーナ》で正規の監督となるに至った。今後にも期待は大きい。

作曲・歌エルトン・ジョン

Elton John

ロック歌手として最高的人气を持つ彼は作曲家としてスタート。歌手に転向してこれほど輝やかしい成功をおさめた例は他にないといわれる。イギリス出身だが爆発的な人気を得たのはアメリカ公演からで、ハリウッドのクラブの公演では現在アメリカの人気ミュージシャンがずらりと席を占めて騒がれた。彼の唱法は現代の若者のうめきを伝えるその声には19世紀の即興詩人の香りがあるとたたえられている。

